

平成30年8月23日

美深町議会議長 倉兼 政彦 様

産業教育常任委員会委員長 小口 英治

所 管 事 務 調 査 報 告

本委員会は、下記の事項について閉会中に所管事務調査を行ったので、会議規則第77条の規定により報告する。

記

調 査 事 項	公営住宅の現状と課題について
調 査 内 容	公営住宅の改修状況と入居状況
調 査 方 法	聞き取り調査、現地調査
調 査 日	平成30年7月23日

調査のまとめ

平成30年度6月末現在の入居状況は、全260戸に対して238戸が入居しており、入居率91.5%となっている。空室は22戸のうち21戸は西団地であり、建物の老朽化や設備関連の水準の低さ、高齢者ニーズにもかなっていないほか、2階建て住宅特有の冬期間堆雪等の課題が要因となっている。また、平成27年2月策定的美深町住環境整備推進計画では建替計画対象となっていることから、入居者の他団地誘導がある。各団地では年次計画により内部改修や屋根塗装、防水工事などの改修を行っている。

西団地の将来に向けての考えは、順次耐用年数を迎えるためA～D棟は木造低層住宅に建て替え、E～F棟は長寿命化型改善ゾーンとしての計画になっている。課題解消のため住生活基本計画では、「子供からお年寄りまで、地域で安心して暮らす住まいの実現」・「多様な居住ニーズに対応した、良質な住宅ストックの形成」・「まちのコンパクト化や地域活性化に寄与する住まいづくり」を目標にしているが、子育て世代のニーズに合致していない部分も見受けられる。

65歳以上親族がいる世帯数を平成22年度と平成27年度の国勢調査で見ると、1,088世帯から1,068世帯で20世帯減少となっており、住宅

所有関係別では、持ち家が936世帯から908世帯で28世帯の減少、公営等の借家は119世帯から133世帯で14世帯の増加となっている。

市街地中心部では、空き地空き家により空洞化が顕著になっている。高齢者及び積雪寒冷地の公営住宅のあり方として、旭川市や東川町に例があるような1棟1戸の公営住宅建設が市街地に整備できるか検討していく必要がある。

また、民間事業者が建設した共同住宅を公営住宅として借り上げるなどの手法もあり、新たな公営住宅の形態として供給できないか研究すべき課題である。

65歳以上親族のいる世帯数の比較

	美深町				北海道			
	H27年		H22年		H27年		H22年	
		構成比		構成比		構成比		構成比
持ち家	908	85.0%	936	86.0%	767,500	77.2%	687,397	78.0%
公営等の借家	133	12.5%	119	10.9%	83,423	8.4%	75,319	8.5%
民営借家	14	1.3%	22	2.0%	130,405	13.1%	104,917	11.9%
給与住宅	11	1.0%	7	0.7%	3,222	0.3%	2,949	0.3%
間借り	2	0.2%	4	0.4%	9,346	1.0%	11,181	1.3%
計	1,068	100.0%	1,088	100.0%	993,896	100.0%	881,763	100.0%

西団地再整備計画

